

成功して柿産地を次世代に繋げる！
柿栽培に新風を吹き込むプラン

八頭町認定農業者 岡崎 昭都

はじめに

柿産地の八頭町は、5年ほど前から特産品の花御所柿、西条柿の樹園地が高齢化による離農、後継者不足で耕作放棄地が急激に増え続けています。

樹園地も樹齢40～60年の古木が多く、次世代に繋げるには、若木の新植、改植が不可欠です。

西条柿は、日持ちが悪く、出荷コストがかかるため、販売単価が低迷し続けています。

花御所柿は、老木になるほどヘタスキ果(規格外品)が多くなり、選果場への出荷が減ります。

柿生産地が抱える問題点を整理し、地元で新たな担い手の育成、栽培技術の普及、輝太郎柿の面積増加、非効率な樹園地を改植して樹の若返りと効率的な樹園地作り、柿の生産量と栽培面積を減らさないことが課題になっています。

私、岡崎昭都は祖父が栽培していた西条柿と花御所柿を守りたいと思い、30歳の2012年に樹園地を引き継ぎました。

当初の栽培面積は、西条柿50a、花御所柿20a、水稲70aでした。就農にあたっては、梨栽培をすすめられましたが、生まれ育った地域の特産物の柿栽培にこだわり、就農してから耕作放棄地を借り、改植して苗木の植栽を行い続けてきました。

また、関東地方を中心に都市型マルシェでの販売、日本大学と八頭町の農産物販売による交流、某テレビ局取材等、関東地方のシェフやバイヤーの視察対応、SNSによる情報発信等、八頭町の柿を宣伝してきました。

現在、花御所柿90a、西条柿40a、輝太郎柿40a水稲110aと就農10年で栽培面積が倍以上になりました。

自分が柿農家の成功事例となることで、新しい生産者が増え、柿産地が発展すると考えています。そのため、「がんばる農家プラン」により、経営規模拡大を目指し、地域の担い手として、地元の定年退職後の生産者や若手生産者の育成、耕作放棄地を改植して樹園地の若返り、栽培技術の普及と伝承、農地の集約化、加工品の開発等に尽力したいと思います。

1 経営の現状

(1) 栽培品目・面積

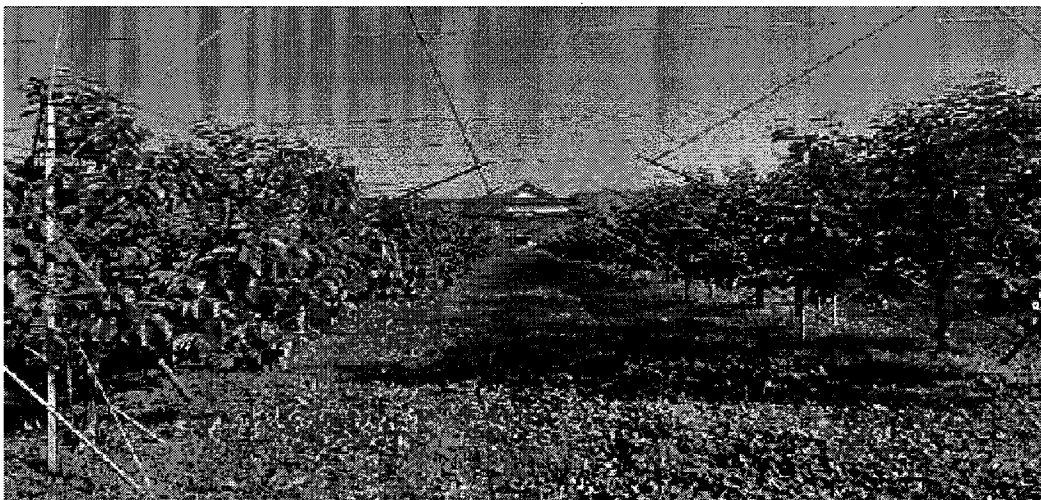
作目・品種名		栽培面積
柿	花御所	90a(内幼木、若木 43a)
	西条	40a
	輝太郎	40a(内幼木、若木 40a)
水稻	コシヒカリ	110a
合計		280a

(2) 労働力

農業従事者	従事日数	区分	作業分担	備考
岡崎 昭都	330日	本人	作業全般、経理	
■	30日	父	防除、草刈り、田植え	
臨時雇用	128人役 (延べ)		摘果、収穫、出荷調製、事務	繁忙期のみ

(3) これまでの主な取組み

- ・「輝太郎」柿の面積拡大、棚導入



・「花御所柿」3反の新植



・軽トラックが入る、作業性の良い樹園地



・防霜ファンの導入(R3年に霜害)



(4) 所有農業機械・施設

機械・施設名	台・棟数	能力・規模	備考
■■■■■	■	■	
■■■■■	■	■■■■■	
■■■■■■■■■■	■	■	
■■■■■	■	■	
■■■■■	■	■	
■■■■■	■	■■■■■	
■■■■■	■	■	
■■■■■■■■	■	■	■■■■■■■■■■
■■■■■	■	■	■■■■■■■■■■
■■■■■■■■	■		
■■■■■■■■■■ ■■■■■	■	■	
■■■■■	■		
■■■■■	■		
■■■■■■	■	■	
■■■■■■■■	■		■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■

2 今後の経営目標

柿栽培の成功事例をつくり、後に続く新規就農者を増やしたい。かつ、地域住民・消費者との関わりを大切に、楽しく農業をするために次のことに取り組む。

(1) 経営規模拡大・産地を守る

現在の我が家の柿栽培面積は170アールあります(八頭町内の平均は30アール/戸)。柿産地を守るため、今後も高齢化等により放棄されていく柿園を引き継ぎ、規模拡大を図るとともに、品種構成を見直し、古木を若木へ改植し、収益性が高く働きやすい園地としていきたいと思えます。

◎目標:経営規模の拡大

現状(令和4年):170アール ⇒ 目標(令和8年):190アール

(2) 後継者育成、地域雇用の増加

これまでの柿生産者は、後継者を育てること、生産者を増やすことに取り組まなかった結果、大半が70代以上で先がない年齢構成になっています。

一緒に柿産地を守っていく生産者を増やしていくため、まずは自分が柿栽培の成功者になって見本となり、そして、若手新規就農者、定年退職後の就農者などへ対して、栽培技術の習得や所得が上がる柿栽培への改植等のアドバイスを実践していきます。

更に、現在、柿栽培の臨時雇用(パート)として、摘果や収穫などに短時間労働を希望する子育て世代のママ友を雇用しています。今後も、経営規模の拡大、出荷量の増加に合わせて地域住民を雇用し、柿栽培を通じた働く場所の確保にも取り組みます。

◎目標:地域雇用の増加

現状(令和4年):128人役 ⇒ 目標(令和8年):172人役

※人役=雇用時間8時間で1人役

(3) 直販拡大、情報発信

現在の柿生産者の販売先は、多くは農協と地元の直売所です。農協出荷の柿は市場等によって価格が決まり、生産者が値をつけることができません。直売所では生産者が値をつけることができますが、地元の直売所では同じ柿を多くの生産者が販売するために安値合戦になっています。

そのため、柿が競合しない県外の取引先や直売所での販売に取り組んでおり、今後も販路、販売量の拡大に取り組みます。

日持ちが悪く、単価が安い西条柿の干柿への加工に取組み、収益性の向上を図ります。

また、自分の柿はもちろん、八頭町の柿、農業の魅力もホームページやSNSなどを活用して情報発信していきます。

◎目標:直売数量の増加

現状(令和4年):100 ⇒ 目標(令和8年度):133

※現状を100として指数標記。以下、同じ。

(4) 環境にやさしい柿栽培

自分が栽培した柿に自信をもって消費者に届けるため、生物農薬の利用や有機質の肥料を主体とするなどの環境にやさしい農業にも取り組みはじめ、令和3年にはエコファーマーの認定も受けました。今後、地元畜産農家とも連携して堆肥施用を増やすなど、環境にやさしい柿栽培を更に進めます。

◎目標:堆肥利用(堆肥散布)

現状(令和4年):16t ⇒ 目標(令和8年):54.6t.

年次別経営目標

	令和4年 (現状)	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年 (目標)
経営規模の拡大 (ha)	170	170	170	170	190
地域雇用の増加 (人役)	128	143	149	161	172
直売数量の増加 (指数)	100	111	113	128	133
堆肥利用量 (t)	16.0	19.2	25.6	38.4	54.6

3 課題と対策

(1) 経営規模拡大・産地を守る

【課題】

現在の八頭町は、生産者の高齢化による離農、後継者不足で耕作放棄地が急激に増え続け、繁忙期の作業の遅れ等が目立つようになってきました。現在も柿園を引受けて欲しいと相談を受けています。

しかし、引受けて欲しいと相談される柿園は、品種がバラバラ、間伐ができていないため樹が混み合っている、樹高が高く脚立に上った作業等、収益性・作業性ともに条件が悪い園が大半です。

【改善策】

このような柿園を引受けるのにあたり、樹高の切り下げ、改植による輝太郎柿や花御所柿の若木の増加、軽トラックが入る空間がある園に整備し、作業性、収益性、利便性の良い柿園を増やしていきます。

併せて、自動草刈り機を導入することで、草刈り作業の効率化を図り、また、圃場管理システムを導入し、ほ場単位での労務管理、農薬・肥料などの使用量の把握、生産量・栽培環境の確認を容易にします。

栽培面積

(単位:a)

作目・品種		R4 (現状)	R5 (現状)	R6	R7	R8 (目標)
柿	花御所柿	90	90	90	90	100
	西条柿	40	40	30	30	40
	輝太郎柿	40	40	50	50	50
合計		170	170	170	170	190

(2) 後継者育成、地域雇用の増加

【課題】

高齢化と担い手不足により、生産者は確実に減り、産地を守っていくために後継者の育成が必要になっています。

また、我が家では、就農当時と比べて栽培面積が増加し、若木が成木へと育つとともに収穫量が増え、既に家族労働では賄いきれず、臨時雇用を増やさなければ経営が成り立ちません。

しかし、現在作業場では臨時雇用の方達が作業・休憩するスペースが不足しているため、軽作業を屋外で行っており、作業環境が良いとは言えません。

【改善策】

後継者育成については、地元の定年退職後の生産者や若手生産者への指導や研修受

入れ等も行い、自ら柿栽培の成功者となって、柿産地の維持・発展を図ります。

雇用については、地元住民や子育て世代の季節雇用、地元の大学との連携、障害者施設との農福連携の取り組みなどによって雇用を確保し、更に、作業場を追加導入することによって屋外で行っていた作業スペースを屋内に確保するなど、働きやすい環境を整備します。

月別年間雇用

(単位:人役)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
現状 (R4年)						36	36			20	16	20	128
目標 (R8年)	20					40	40			24	24	24	172

(3) 直販拡大

ア 出荷調製

【課題】

県外の取引先や直売所での販売については、作業場で出荷調製を行っていますが、出荷調製時に使用している中古の選果機は性能が悪く、選果時に重量ミス等が多発していて、作業効率の低下を招いています。

今は1つの作業場で出荷調製、梱包作業等をしていますが、繁忙期になると一度に大量の柿を収穫するため、作業場の中に保管場所が確保できず、収穫した柿を作業場の外に置かなくてはならない状況です。

今後、若木が成木になり、栽培面積が増加することにより収穫量も多くなります。農繁期には、作業動線が確保できないため農機具を外に出さなければならず、農機具の低寿命化を招いています。

【改善策】

新しく選果機を導入することにより、選果効率が上昇するとともに精度もアップし、規格が間違った柿が混ざらないことから顧客からの信用が増し、出荷量・販売額の増加が図られます。

作業場兼倉庫を新設し、これまでの作業場と併用することで、作業動線を確保し、出荷量の増産、出荷調製の効率化を図ります。

同時に倉庫内に収穫した柿を保管することにより従来より品質が向上し、盗難も防げます。

イ 加工

【課題】

西条柿は、販売するまでに出荷資材費が高く、収穫してからの日持ちも悪い品種であり、生果では栽培しても儲けることが難しい状況です。

しかし、現状の作業場では西条柿加工品における作業スペースが十分に確保でない状況です。

【改善策】

西条柿は、日持ち・保存性が高い加工品(干し柿)生産に力を入れ、ハイクオリティの加工品を生産します。同時期に収穫できる輝太郎柿とのセット販売で、収益性の向上が見込めます。

価格低迷で廃園が増えている西条柿を干し柿加工で、新しい風を産地に吹かせます。

柿出荷量、直売数量

品種	現状(令和4年)			目標(令和8年)		
	出荷量	直売率	直売数量	出荷量	直売率	直売数量
西条	4,670kg	100	100	4,500kg	140	135
花御所	5,602kg	100	100	7,000kg	100	124
輝太郎	2,054kg	100	100	5,000kg	71	172
合計	12,326kg	100	100	16,500kg	100	133

(4)環境にやさしい柿栽培

【課題】

八頭町の樹園地は、大半の農家が化成肥料を使用した栽培暦どおりの栽培を行い、土壌が硬くなり水はけも悪くなっています。

我が家では、牛糞堆肥を樹園地に散布し、土壌改良に取り組んでいますが、現状は運搬車に牛糞堆肥を積み、スコップで手散布をしています。面積が拡大してきており、作業、体力的にも重労働です。

近隣農家も牛糞堆肥を施用したいが高齢と重労働が問題となっています。

【改善策】

果樹園用の小型マニアスプレッダーを導入し、作業の効率化を図ります。牛糞堆肥を樹園地に入れることにより、土壌改良・樹園地の保水性が高くなり、干ばつや長雨に強い樹の育成を図ります。

さらにマニアスプレッダーを導入することにより、近隣農家の堆肥散布の受託作業を受け、樹園地の土壌改良、品質向上を図ることができます。

堆肥散布量

	現状(令和4年)		目標(令和8年)		
	面積	散布量	面積	堆肥量	備考
成 木	87a	16t	126a	25. 2t	2t/10a
若木・幼木	83a	(約 1t/10a)	64a	6. 4t	1t/10a
散布受託	0a	0t	115a	23. 0t	2t/10a
合 計	170a	16t	305a	54. 6t	

4 事業計画対策

導入機械・施設	規模	導入年	事業費(円)	事業区分
作業場	81 m ²	2023年	4,807,000	がんばる農家プラン
ほ場管理システム	一式	2023年	6,600 円/年	自力施工
選果機	1 台	2024年	1,123,100	がんばる農家プラン
西条干し柿包装デザイン	一式	2024年	199, 100	がんばる農家プラン
マニアスプレッター	1 台	2025年	1,700,000	がんばる農家プラン
干し柿用ビニールハウス	1 棟	2023年	240,000	自力施工
自動草刈り機	1 台	2023年	700,000	スマート農業社会実装加速化総合支援事業

5 具体的な取組み内容

項目	R5	R6	R7	支援体制
環境にやさしい柿栽培				
化学農薬・肥料の削減	○	○	○	本人
畜産農家との連携	○	○	○	本人
マニアスプレッターの導入			◎	本人、県、町
西条柿の加工				
加工用ハウス整備	○			本人
干柿への加工	○	○	○	本人
作業場の整備	◎			本人、県、町
販売用包装デザイン		◎		本人、県、町
経営規模拡大・効率化				
柿園の改植		◇		本人、県、町 ◇鳥取柿ぶどう等生産振興事業
ほ場管理システムの導入	○	○	○	本人
作業場の整備(再掲)	◎			本人、県、町
選果機の導入		◎		本人、県、町

雇用対策				
雇用の確保	○	○	○	本人
作業場の整備(再掲) ※作業環境の待遇改善	◎			本人、県、町
後継者育成				
就農者等への技術指導	○	○	○	本人
栽培体験・研修受入		○	○	本人、県、町、生産部、農協
情報発信				
SNS等を活用した情報発信	○	○	○	本人
メディア等の取材協力等	○	○	○	本人

◎:がんばる農家プランで実施 ○:本人が主体となって実施

6 おわりに

今後、後継者不足により、生産者の高齢化や耕作放棄地の増加は加速することが見込まれます。

作業効率・生産性が高い樹園地の整備、集約化と品種構成の見直し、子育て世代や障害者との連携がとれた雇用形態、地域の若者が農業に興味を持ってもらえるように楽しい農業に取り組みつつ、新規就農者、定年退職後の就農者に対して技術指導を実践していきたいと思えます。

また本プランにより、更なる販路拡大、柿のPRに努めていきたいと思えます。

八頭町の現在と今後の課題について、生産者、関係者と時間をかけてしっかりと整理を行ない、八頭町の柿生産を発展させていきたいと思えます。

